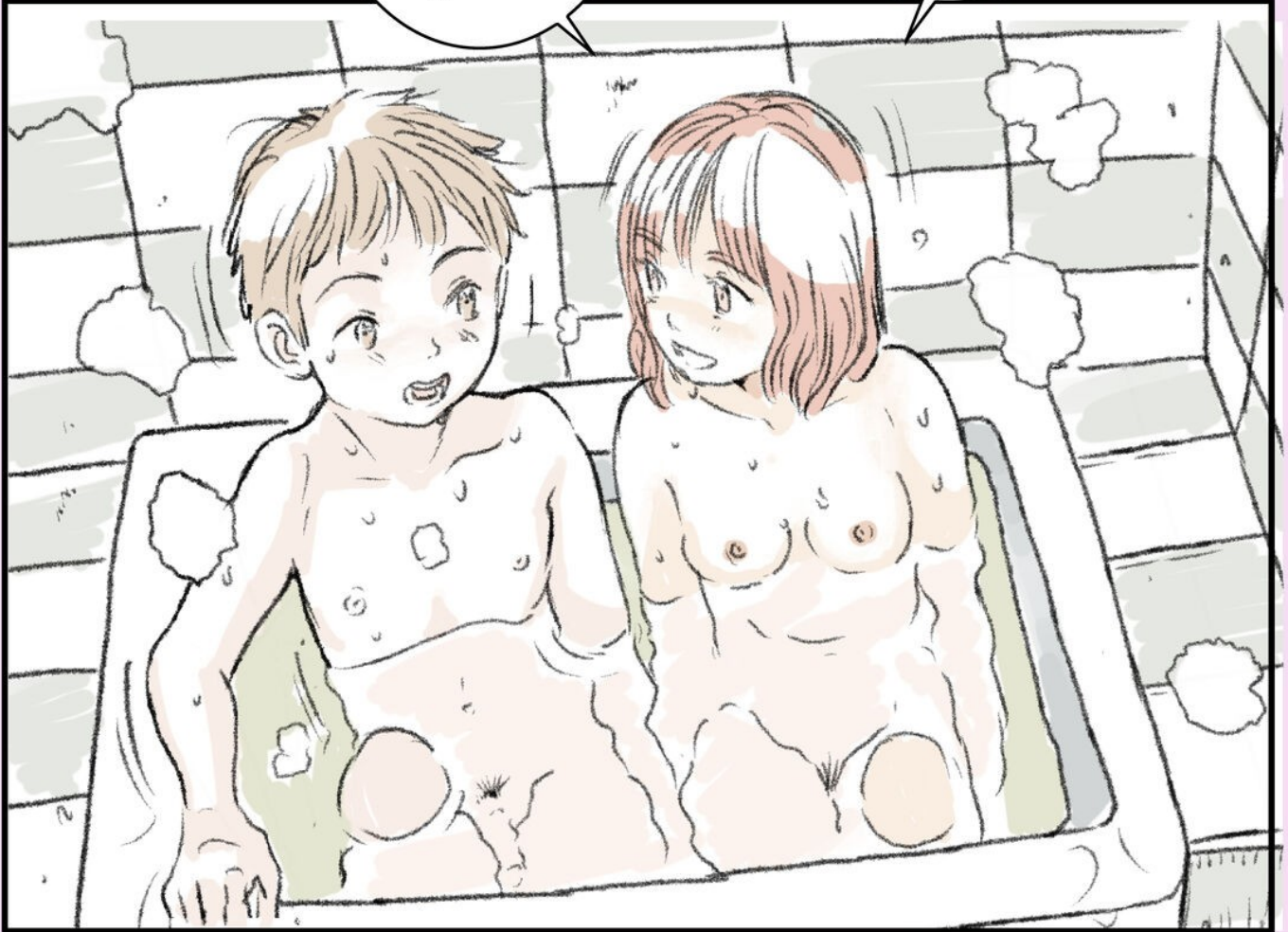


ねえ
もつと
そつち
行ってよ

わたし
昔とちがって
あちこち
大きくなってるんだから



夕方になって
ふたりで
一緒にお風呂に
入ったんだけど
彼女の
やわらかい身体が
ぼくにふれるたびに
ぼくのあそこは
大きく反応してしまつて

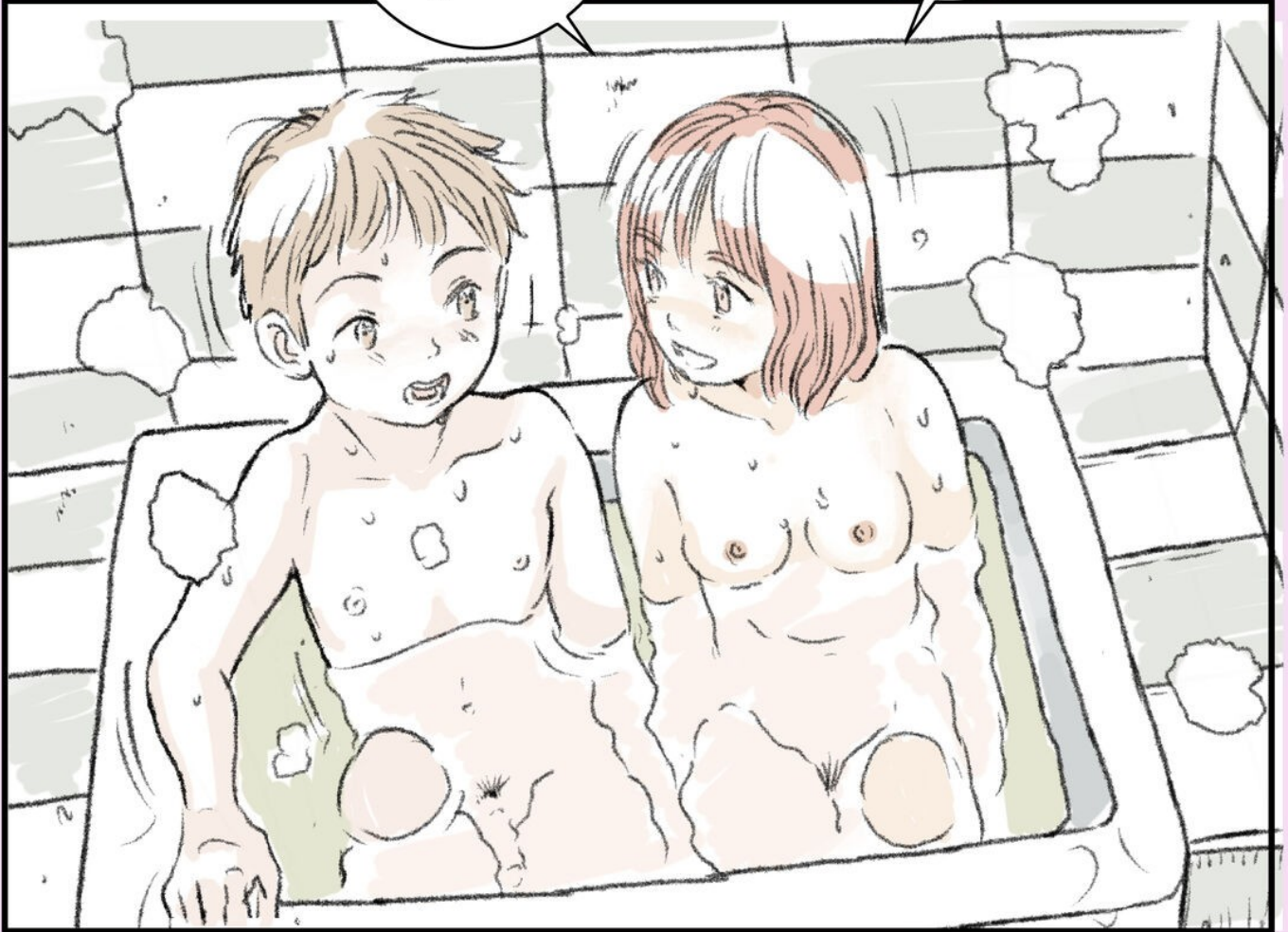
数年ぶりに
昔住んでた田舎に
帰ってきたぼくは
そこで3歳下の
従妹に再会した
夏休み

ねえ
お兄ちゃん
昔みたいに
お風呂はいい
お風呂はいい
いいよね



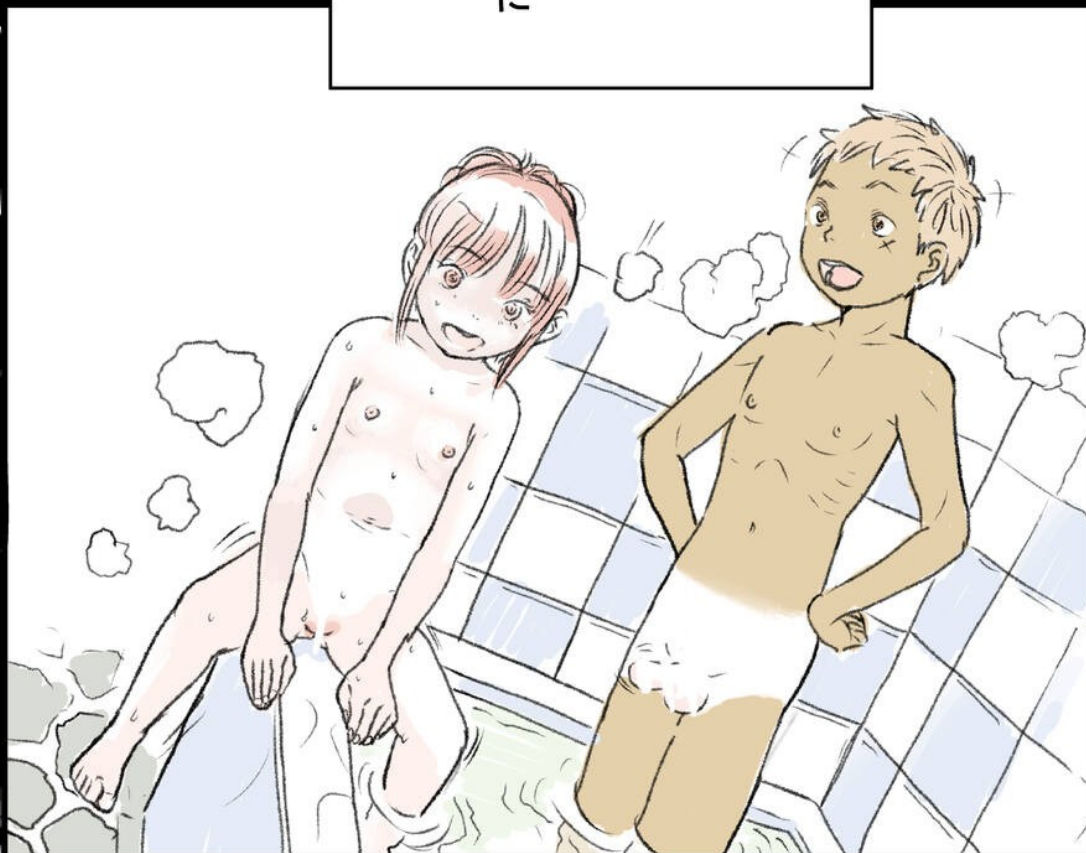
ねえ
もつと
そつち
行ってよ

わたし
昔とちがって
あちこち
大きくなってるんだから

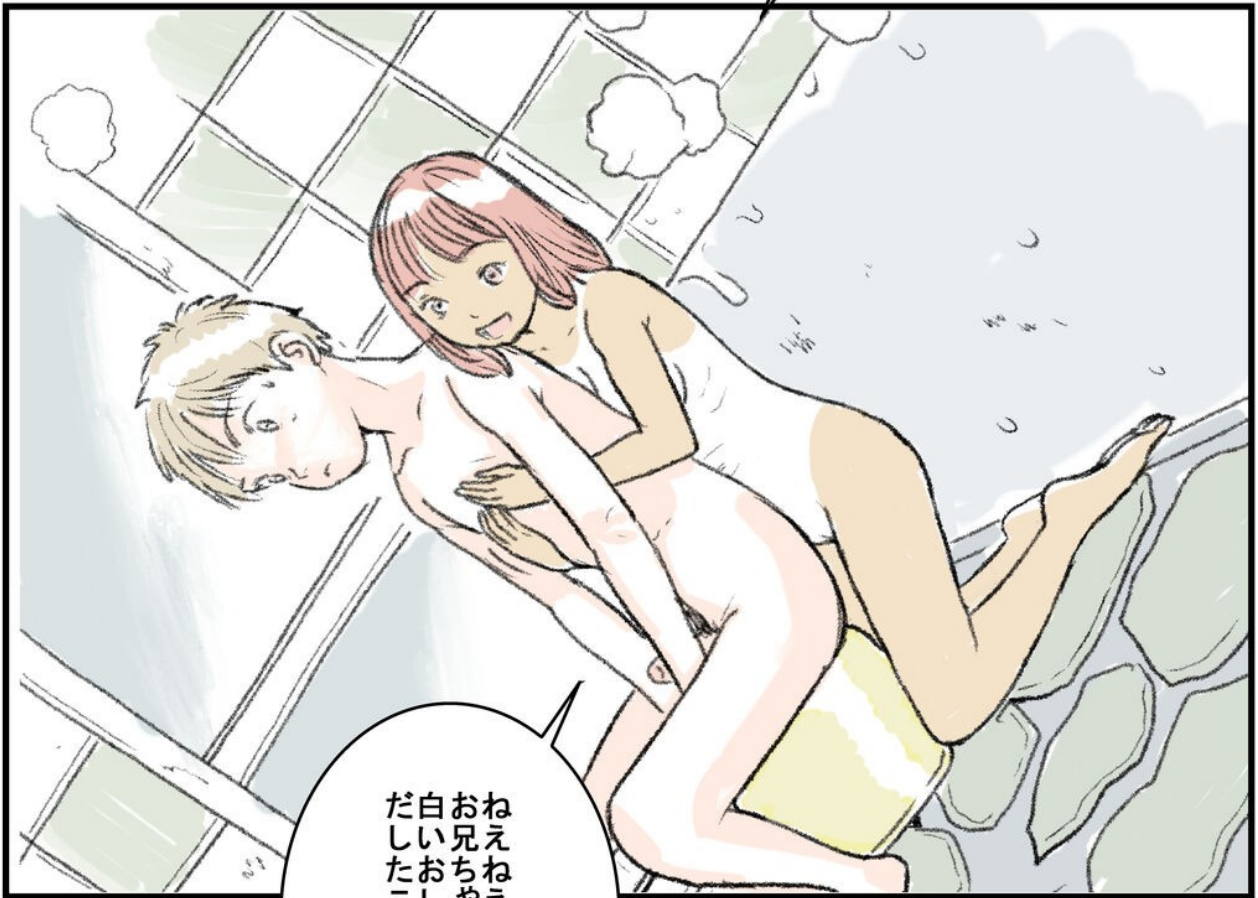


夕方になって
ふたりで
一緒にお風呂に
入ったんだけど
彼女の
やわらかい身体が
ぼくにふれるたびに
ぼくのあそこは
大きく反応してしまっ

昔
一緒
にお
風呂
に入
って
いた
とき
は
と
く
に
何
も
感
じ
な
か
つ
た
の
に



あーお兄ちゃんの
綺麗なすもも色だー
ぜんぜん
じいじのと違うー



ねえねえ
お兄ちゃんて
白おしっこ
だしたことがある？

僕は
どう答えるか
困ってしまった
言葉に詰まって
しまった

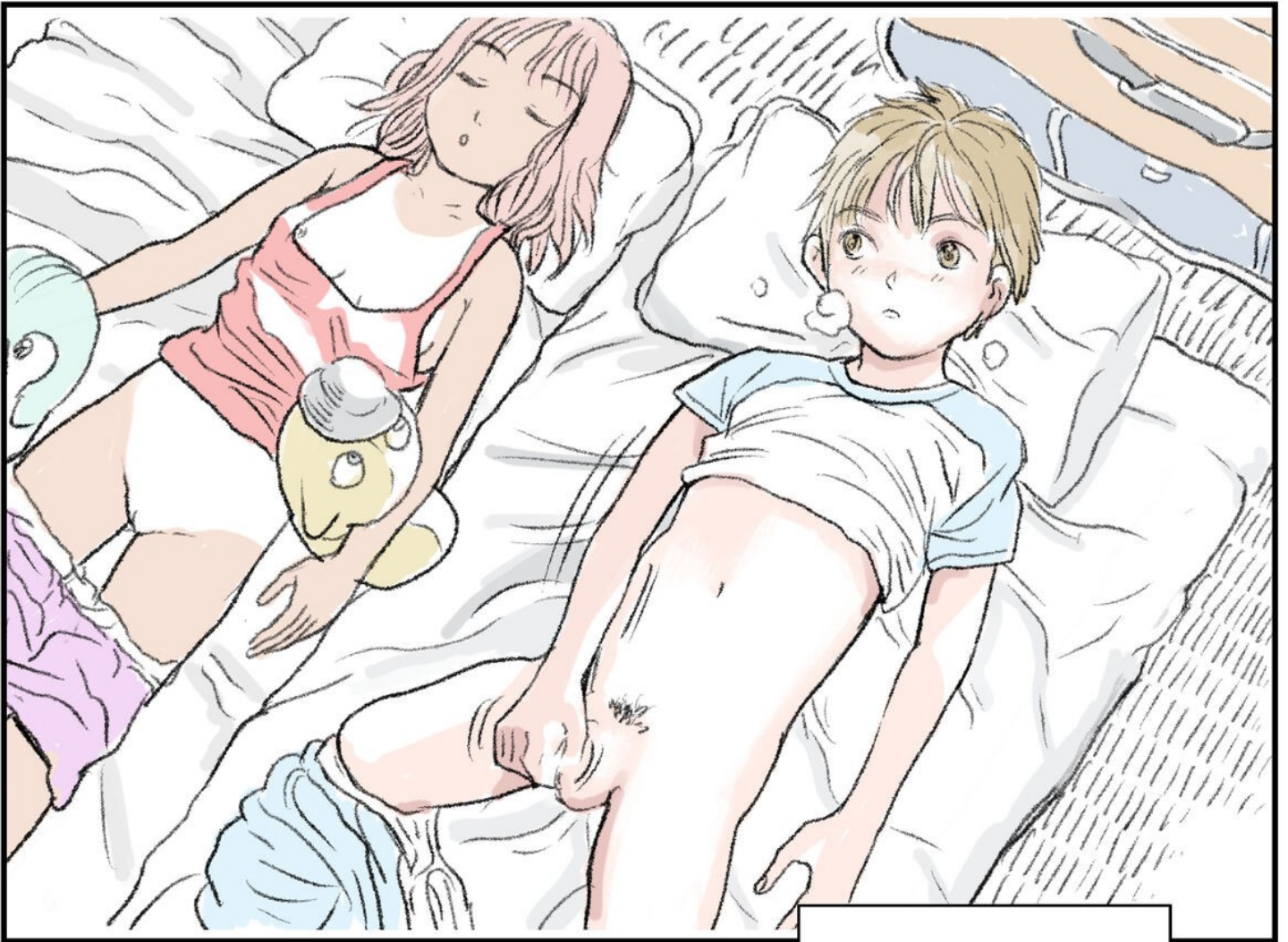
すると
彼女は
僕の顔の前で
大きく足をあげて
彼女のかわいい
あそこをみせびらかした
クリトリスが
綺麗なピンク色に染まっていた



わたくし
おしっこ
白いです
だいたい
うまい
んだよ

その夜ぼくは
彼女と一緒に寝た

彼女が
眠つたのを
確認してから
お互いの
パンツをおろして
あそこを
いじりはじめた



その夜
ぼくの手の中に
信じられない量の
精子があれだし
朝までその
匂いはきえなかつた

完



